

江工会会報

発行所
江 工 会

島根県江津市江津町1477
島根県立江津工業高校内
電話(代)0855-52-2120
郵便番号〒695-0011

「令和10年新設高校開校に向けて」

会 長 土 井 正 人
(工業化学科 昭和三十九年卒業)



江津高校と江津工業高校を合併して新しい学校を創ると県が発表

してすでに一年半が経過します。その間、新設校開校準備委員会が5回開催されて「1期中間まとめ」が発表されました。

1. 設置場所として江津工業高校の現在地とする。
 2. 新設校の開校を令和10年4月とする。(現在の小学校6年生が対象となります)
 3. 普通科系には「普通科」と「新しい普通科」、工業科には「機械、電気系」と「建築、都市工学系」の学科を設置とし、それぞれくり募集をする。
- 「くり募集とは、普通科、工業科をそれぞれ一つで募集し2年次になってから科(コース)を選択する方法」先般各校の教育後援会と卒業生会の連名でもって県教育

委員会に要望を行いました。

- 一、管理棟及び教室棟の新設
 - 二、体育館の新設
 - 三、校門の移設
 - 四、女子寮の新設を含めた現在の寄宿舎の整備
- などを求めるものです。それに対して

1. 安心安全な教育環境整備
女子トイレや女子更衣室などの環境整備
老朽化した校舎、体育館実習棟の整備
 2. 特色ある学びに必要な施設
の整備
 3. 住まいの確保、寄宿舎の整備
- などを検討するとあります。そしてこれからは教育課程・校名の在り方、入学選抜の在り方などが議論されます。そうした中、江津(石見地方)にとつてどのような新設高校が望まれるのかなどの思いを持って、市長と直接議論も行いました。いづれにしても江津(石見地方)にとつて大きな期待と課題であると思います。

卒業生の皆様方も多に議論をしていただき希望のある新しい高校が誕生することを願つてやみません。皆様方のご健勝をお祈り致します。

「現況報告」

校長 榊 野 哲 央
(機械科 昭和六十二年卒業)



江工会会員の皆様には、平素から当校の教育活動に格別のご支援

を賜り、厚くお礼申し上げます。令和6年度は開校90周年の節目の年であり、開校90周年記念事業を実施いたしました。事業の内容ですが、記念式典を10月11日(金)に江津市総合市民センターにおいて、盛大に開催させていただきました。そして、式典の後には、『出会いは宝 石見から都市へ』の演題により、(株)シヨオ・オフィス取締役 小笠原万正様(昭和51年建築科卒)に記念講演をしていただき、華を添えていただきました。また、体育祭と文化祭も記念事業として開催し、体育祭では、6000個のバルーンリリースや石見ケールブルビジョン(株)「レンタルかねこ」の収録も行いました。更に、文化祭は、しまね海洋館アクアスにおいて開催し、江津市内各校にも協力をしていただき、多数の皆様にご来場いただきました。一連の記念事

業を無事かつ盛大に実施することができましたのは、皆様のご協力のおかげでございます。あらためてお礼申し上げます。さて、当校は昭和9年の開校以来、全国の産業界で活躍する有為な人材を輩出し、その数は約14000名となっております。近年は、「島根創生計画」をふまえ、「地域産業を担うテクノロジスト(専門の技能と知識を持ち合わせた職業人)の育成」をスクールミッションとし、「つながる」「みがく」「つたえる」の3つの教育活動を展開し、地域に貢献できる人材の育成に努めております。特に、令和6年度は新たに、江津市商工観光課、GOGO T S U G O ソーシウム事務局(江津市教育委員会社会教育課)のご尽力により、江津市内企業24社にご支援をいただきました。2年生が1年間をかけて「協働探究学習(企業探究プロジェクト)」に取り組みしました。この新しい教育活動を通して、地域に貢献できる人材の育成を更に推進するとともに、地域の企業の魅力や地域の小学生や中学生の皆さんにもお伝えすることを進めて参りたいと考えております。

一方、皆様ご承知の通り、江津高校との統合による新設校開校が決定し、昨年2月に新設校準備委員会が設置されました。委員会では、当校と江津高校の素晴らしい教育活動を融合させ、中学生の皆さんにわくわくして入学をした

いと思つていただけの高校の開校に向けての準備を進めております。皆様には、本校と同様に新設校の開校に向けてもご支援を賜りますようお願い申し上げます。結びに、皆様方のご活躍とご健康をお祈り申し上げます。挨拶とさせていただきます。



「質実剛健と不撓不屈を育んだ江工90周年」

副会長 岡 本 正 友
(建築科 昭和四十六年卒業)



江津工業高校同窓生の皆様には新春を健やかに迎えられる心よりお

慶び申し上げます。昨年の正月元旦は能登半島地震が発生し、多大な被害の傷跡を残した前途多難な一年のスタートでした。ふるさと浜田においても津波避難警報から海辺の方々



「開校90周年に思う」
副会長 福田 稔
(工業化学科 昭和五十三年卒業)

昨年10月11日、ミルキーウェイホールにおいて、島根県立江津工

避難される状況もありました。幸いに影響なく無事に終え安堵したところです。被災された北陸の皆様に対して衷心よりお見舞いを申し上げます。にも募金活動を行い浄財として対応させていただきました。さて、わが校の江津工業高校90周年の記念式典・記念講演は、多くの来賓及び同窓生や在校生が出席され、厳かに記念事業に相応しい華々しいセレモニーでありました。特に本校51年建築科卒業の小笠原万正さんの講演では、これまでの仕事を通して経験談などその活動に敬服しながら拝聴させていただきました。ところで、この度浜田支部の役員改選を行い、新しく隅井保彦さんが選出されました。人望も厚く次世代の方々とのネットワークを持つ素晴らしいフアイトある方です。私たち団塊世代は勇退するのではなく、今後も支える覚悟で支部を盛り立てていく所存ですので、同窓生の皆さん会員の皆様には、引き続きご支援とご協力賜りますようお願い申し上げます。

業高等学校の開校90周年記念式典が盛大に行われました。輝かしい歴史の節目を迎え、当然喜ばしいことではあるのですが、江津工業高校としての最後の周年記念式典でもあり、「江津工業も終わってしまうのか」と寂しさを感じたのは私だけでしょうか。さて、少子高齢化が進み、全国各地で学校の存続が危ぶまれている昨今、我が江津工業高校も令和10年度から江津高校との統合が決まり、90年続いた伝統に終止符をうつこととなりました。私自身、江工会の副会長に就任して早七年、やっと江工会の役割が分かってきたところでしたので、とても残念な気持ちでいっぱいです。そして、江津高校の歴史を調べてみると、統合が予定されている令和10年は70周年の節目を迎える年のようです。江津工業の卒業生のみならず、江津高校の卒業生も同様に寂しさを感じていることと思います。普通科高校と工業高校との統合には様々な困難も予想されますが、新学校においては伝統ある2校のそれぞれの良い面を掛け合わせ、生徒たちにとってより良い教育環境を作っていくことが大切だと考えます。そのためには地域との協働も必要不可欠であり、特に地域に在住する私たち卒業生に求められていることではない



副会長・桜江支部
藤田 厚
(電気科 昭和四十三年卒業)

お願いいたします。 喪中の為、あいさつはひかえさせていただきます。 よろしくお



でしょうか。ある方が私に、「時代の流れには逆らえない。しかし、江津工業での3年間の記憶は、確かに皆の心に刻まれているのだから、その思い出を忘れずに歩んでいきたいね。」と言われました。江津工業高校はなくなりませんが、市内に1つだけの「江津の公立高校」です。江津工業高校への母校愛は変わらずに心の中に持ちながら、新学校の開校を見守っていきましよう。結びに、今年も皆様にとつて幸多き1年となりますよう祈念いたします。

江工会支部だより

関東支部

「母校への想いと未来への期待」
関東支部 舟木 周次



(建築科 昭和五十年卒業)

私は江工卒業後、法学部に進学しました。異なる分野に進む選択をしたのは、高校で培った基礎知識を土台に、より広い視点で社会に貢献したいという思いがありました。高校時代の学びの中で、建築の魅力に心を奪われました。実習で同級生と力を合わせた経験や、学校祭で学年を超え一丸となつてのパフォーマンスは、今でも鮮明に思い出されます。これらの経験を通じて、学ぶ喜びと、何事にも誠実に向き合う大切さを知りました。母校での学びは、社会に出てからも私の大切な支えであり続けています。

ゼネコでの歩みと役割

大学卒業後、ゼネコに入社しました。直接現場に携わることはありませんでしたが、システム部門や経営・営業企画部門で、会社全体を支える役割を担ってきました。システム部門では、建築プロジェクトの進行を円滑にするためのデジタルツールの導入や、業務プロセスの効率化

に取り組みました。経営企画部門では、業界全体の動向を分析し、長期的な成長戦略を策定する一方で、地域社会と連携した事業の推進にも尽力しました。営業企画では、クライアントとの信頼関係を構築し、新たな市場を開拓するための企画を立案するなど、多岐にわたる業務に携わりました。これらの経験を通じて、「建築とは社会全体を支える基盤であり、多くの人々の力を合わせて初めて成り立つ総合芸術である」という認識を深めました。現場での直接的な経験はなくとも、間接的に業界全体を支える役割に携れたことは、私にとって大きなやりがいでした。江津工業高等学校・江津高等学校の統合計画が進められているとのこと、2校を統合し、2028年度には、1学年3学級の新しい高校を新設する計画があると聞いています。新設される高校では文系大学や看護などの資格職を目指す学科と、ロボット制御や建築などを学ぶ工業系の学科の設置が予定とのこと。これは、地域の教育の質を高め、より多様なキャリアパスを提供する取り組みとして、非常に意義深いものです。特に、工業系学科ではAIやIoT、ロボット制御といった先端技術に触れるカリキュラム

が導入されることが想定されておられるニーズに即した教育が期待されています。私自身ICT技術を活用した業務改善に携わった経験から、こうした学びが将来の若者たちに大きな武器を与えると確信しています。

卒業生としての期待と取組み母校の統合計画を通して、新たに生まれる高校が地域の教育の拠点となり、多くの若者が自分の可能性を追求できる場となることを願っています。地域社会と密接に結びついた教育を提供しながら、地域の活性化にも貢献するこの計画に、心から期待を寄せています。私自身も、退職後は教育やコンサルティングを行う会社で、若い世代に建築業界の魅力や可能性を伝える活動を行っています。特に、デジタル化の進展が業界に及ぼす影響や、それに対応するスキルの重要性について講演やセミナーを通じて情報発信をしています。また、持続可能な社会を目指す建築のあり方について議論を深める場を設け、若者たちの視野を広げる支援も行っています。江工での学びは、私の人生の基盤であり、どんな時も心の支えでした。統合計画により新たな形で生まれ変わる母校が、これからも地域社会の発展に貢献し、多くの優れた人材を輩出し続けることを心より祈念しています。

関西支部

「やっぱり、同級生はいい！」

支部長 中上 清之

(建築科 昭和五十一年卒業)



新年おめでとうございませう。江工会員の皆様にはま

すませご健勝のこととお慶び申し上げます。

昨年は、母校開校90周年の節目の年でありました。改めてお祝い申し上げます。

10月には記念式典も開催され、各方面からたくさんのご来賓があり、関西支部からも2名出席させていただきました。文科省の統計によりますと、昨年の高卒の就職率は全国平均で98%、工業科においては99.5%と高い就職率となっておりまして。私が卒業した昭和51年は42%程度です。で、当時は卒業しても半数以上仕事に就けていない人がいたことになりました。今はまさに『金のため』状態です。母校では定員割れが続いているようですが、『技術立国、日本』の工業高校の復活に期待したいところです。

さて、私は、昨年5月の本部総会に初めて出席させていただきました。卒業以来48年ぶりに同級生と再会しました。江津市役所元支部長の島田君です。消防署の署長まで勤め上げ定年後の現在は、コ

メ作り、野菜作りが楽しみでした。卒業以来の再会でしたが、面影が残っていて直ぐにわかりました。今度はゆっくり会いたいと思います。前日には、同級生5人が金城町の堀越君の家に集まってランチ会です。堀越君は昨年、大阪からUターンして金城町に帰郷。町内の若手として、いろいろな行事に積極的参加し、金城町の活性化に貢献しています。

ボート部で活躍した森岡君は、今でもシニアの大会に出場して頑張っています。

昨年は優勝したそうです。精神力と体力を維持していることに尊敬します。また、彼が作った漬物は大変美味しいもので、何か職人技を感じます。数年前に東京からUターンした横山君は、地元の浜田で設計の仕事をしています。事務所では横山君一人だけ。たまに同級生が安否確認に訪れるそうです。

運動不足もあつてか、少し体の不調があるようですが頑張ってください。弓道部で大活躍し日本一になった、関東支部前支部長の小笠原君は、東京と浜田を行ったり来たり生活。若いころから設計事務所を立ち上げ、今は息子さんに引き継ぎながらも自身でも現役で活躍中です。昨年の母校開校90周年の式典では記念講演も行いました。

そして翌日は、三次市まで行き、バレー部で活躍した漆

谷君と再会。卒業以来48年ぶりの再会でしたが、数カ月ぶりに会ったような不思議な感覚でした。工務店を経営していて、当日は仕事にもかかわらず時間を作ってくれました。

3年生の時にキャンプした思い出が懐かしいです。2日間の短時間でしたが、合計6人とプチ同窓会が実現し、元気をもらって帰阪の途へ着きました。

私は人生の後半戦が始まっていますので、『悔いのない生き方』『元気なうちに出来ることをやる』をモットーにしており、この度それが実現できて、大変自己満足しています。同級生の皆さんありがとうございます。ありがとうございました。

15歳の多感な時期に出会ったのも何かの縁です。またの機会に、同級生全員が集まったの同窓会ができることを楽しみにしています。



忘年会

全国の卒業生の皆様！

今年、6月7日は関西支部の総会を予定しております。山崎ていじさんもゲストで来阪予定ですので、是非遊びにお越し下さい。そして、同総会の場としてもご利用いただきますよう、役員一同お待ちしております。



ゴルフコンペ

山口県支部

「江工会の発展を祈願」

支部長 大屋 節 雄

(工業化学科 昭和三十八年卒業)



江工会山口県支部は令和6年5月19日に解散しました。

皆様、明けましてお目出度うございます。さて、江工会山口県支部も高齢者が多くなり、体調不良で会合等への参加が出来ない人も増えました。



があれば、電子手段で連絡はとりあう事としております。かつて江工会山口県支部総会に江工会本部より土井会長以下多数の方が来賓として数度にわたりご来場いただき、懐かしい思い出が多々あり思わず涙がでました。本当に長い間のお付き合い、ありがとうございます。厚くお礼もうしあげます。

最後に江工会本部の益々のご発展、並びに江工会関係者のご健康とご多幸を祈願して筆をおきます。

益田支部

「開校90周年に思う」

支部長 安田 徳 太
(建築科 昭和四十一年卒業)



今年度も会員12名の出席のもと、支部総会が7月5日益田市内の料理店で開催されました。本

令和6年1月21日に山口市小郡にて、江工会山口県支部の役員が集まり、今後の運営について討議を行いました。その結果、手順を踏んで解散する事になりました。5月に江津での江工会本部での総会に会長大屋が出席し、解散するとの意向を伝え、令和6年5月19日に小郡にて最後の江工会山口県支部総会を行い、20名が集まりました。そこで協議した結果、全員解散する事で一致いたしました。

当時、支部には相当の預貯金がありましたので、解散に伴う必要経費を残し、大半を江工会本部に寄付、また端数のお金は能登半島地震災害への募金を行い令和6年6月5日を持ってすべての解散手続きが終了しました。

但し解散しても江工会山口県卒業生OB会員として江工会本部からの寄付その他照会

の近況を3分間ぐらいにまとめ、面白おかしく全員で話を

しました。皆さんの母校への思いが最後に話され、やはり1年に1度ではなく花見や夏の思い出に集まるのが大切だなと心から思う1日でした。

母校も90周年を迎え、卒業生として60年が過ぎ、同級生も何人も亡くなり4年に一度の同窓会も何十年も続きましたが、今はコロナの影響で途絶えてしまйнаかなか声を出す人間も少なくなり、実行することも難しく寂しい思いでいっぱいです。

年を重ねるたびに思うことがあります。一番駄目なことはまず人に会って身近な事や相談事を積極的に話す事、思いを伝える事、新しいことに挑戦してみようなどの事が薄れていく気力の低下ではないでしょうか。年だから仕方ないかと思う心になるのが歯がゆいです。私は息子に代表取締役は譲りましたが現在も会長にとどまり、60%の株数を持ち営業も自分の範囲を守り自ら東京まで出かけています。自分自身でやれる事と息子が社長としてやることと分担を

分けているつもりです。毎朝5時に起床、6時10分出社、トイレ掃除の後自社の前の道路清掃を8時5分前まで雨や風、雪に言い訳することなく欠かさず毎日行っています。毎日通学の子供達や勤めに出る人たちに笑顔で挨拶を交わすことが毎日の日課で、出社してくる社員にも毎日変わらず笑顔で「おはよう」と声を

掛けられる自分の健康に本当に感謝しながら過ごすことができる喜びを味わっています。

90年間送り出された卒業生は千差万別ではありますが、高校時代の思い出はほとんど遠く去っていくかもしれませんが、必ず高校生活3年間人生の思春期に過ぎた事だけは消えません。私は数多くの江津工業高校益田出身の卒業生の中でも数少ない汽車通学3年間の生徒だと思います。益田駅発朝5時25分、夕方4時江津駅発の汽車はSL列車で煙とススは今でもはつきり思い出として残り、列車内でのたくさんの他校の生徒との喧嘩や淡い恋の思い出は消すことのできない思い出です。

江津高校との合併で校名は消えるかもしれませんが、私たちの心の中に残る思い出はずっと生き続けると思っています。残された人生がどんどん少なくなりましたが、学んだ高校時代の良き思い出と共に少しでも世の中の役に立つ人間で終わりたい心境です。

浜田支部

「浜田支部からの報告」

支部長 隅 井 保 彦
(機械科 昭和五十九年卒業)



令和7年を迎え、会員の皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申

し上げます。

昨年7月に江工会浜田支部の総会において浜田支部長を仰せつかりました。母校が統合という新たな局面を迎える中、不慣れではございますが会員皆様の交流を深めるために尽力してまいります。

さて、昨年、私たちの母校である江津工業高等学校と江津高等学校の統合が正式に発表され、2028年度を目途に新たな高等学校が開校することとなりました。この決定は少子化や地域の教育環境の変化といった社会的課題を背景にしたもので、OB会として地域や卒業生にとつて大きな転換点となり、江津工業高等学校が長年培ってきた技術教育、物づくりの精神など、実績がどのように継承されるか見とどけたいと思っております。母校の名前が無くなるのかどうか複雑な思いを抱く方も多いかと思いますが、90周年を迎えた江津工業高等学校は江工会として工業魂と伝統、そして精神を未来へつなげる役割を果たしていかねばならないと考えています。

一方、江工会のあり方についても変革が求められます。母校に感謝の気持ちを示し地域に根ざした活動を通じて支援をし、学校の発展に寄与する。これは、一般的なOB会の考え方ですが、その母校名が無くなる事でモチベーションが低下し、組織低下につながるのではと危惧しています。

現在、江工会浜田支部の組織人員は大半が50歳以上で、20歳から50歳までのメンバーが少なく組織拡大が望まれません。同窓生同士の交流と世代を超えた結びつきを大切に、若手世代を巻き込んで多様な価値観を取り入れる事が、今後のOB会のあり方を検討するうえで重要だと考えます。

これまで支えてくださった諸先輩の思いを大切にしながら、支部の会員がさらに結びつきを深められるよう新しい時代に向けて、引き続きと力添えをお願い申し上げます。最後にありますが、本年が皆様にとりまして実り多き一年となりますことを心よりお祈り申し上げ浜田支部長の挨拶とさせていただきます。

江津支部

「新会員の皆様へ」

支部長 島 崎 庄 次
(建築科 昭和四十五年卒業)



私が江津工業学校の建築科に入ったのは、初めて女性が入学した

年でした。今までは男子生徒ばかりでした。昭和45年の卒業です。卒業の年は大阪で万博がありました。日本が高度成長の波に乗って来た時代です。大阪と東京で建築の仕事をし、島根に帰って今は江津で建築の設計事務所をしています。

まず。最初に社会に出て感じたのは、人間って何で生活状況の良い人と悪い人の差が出るのかなーと思います。

有名な学校を出たから良い方向に行くのか、裕福な家に生まれたから良い方向に行くのか、私には判りませんでしたが、初めて社会に出て色々な出来事に出合います。その時自分自身はどう受け取っていたか、不平不満、愚痴、泣きごと、悪口、文句、など色々な思いが出て来たと思います。良い出来事ばかりが出ると、嬉しく楽しいのですが、嫌なことも多々多かったです。それは自分がその出来事に対して、自分で色を付けていた。本当は出来事自体色は無く、自分が出来ごとに対して好きだ嫌いだと言って、色をつけているに過ぎない。例えば他の人だったらそれを好きと言うかもしれないし、又違う人だと嫌いだと言うかもしれない。人は全て自分で色を付けているのが、人間なんだと理解しました。偉大な人物は今の自分が有るのは、過去に誰が見ても苦しい、大変な状況になっても、ただ淡々とその出来事に対処してきた。不平不満、愚痴、泣き事、悪口、文句を言わず、ただ黙々とこなしてきた。あの時の苦労や苦しみがあつたからこそ、今日の恵まれた環境があると、全ての人がそう言われます。苦しい時や悪い事が起きると、良くないと言われますが、

苦しい時や悪い事が起きるか、こそ自分の成長が有ると思うと、苦にならないし、楽しく面白く成って行くように思います。苦しい時辛い時程「有難うございます」と言っ言葉に出す。不平不満、愚痴、泣き事、悪口、文句を言わないようすると気持ちが悪く下らない、「有難うございませ」と言えば言うほど自分を応援する人が、味方に成って広がり、益々成長して行くように思います。有難うと相手に言つて、敵対意識が生まれますか、この繰り返しが差と成つて表れるように思います。

江津市役所支部

「新年のごあいさつと近況のご報告」

支部長 梅 木 茂 雄
(工業化学科 平成二年卒業)



あけましておめでとうございます。江津市施行70周年の節目も終わり、新しい一年の始まりとなりました。

昨年を振り返ると、施行70周年の関連で様々な催しがありました。その中でも、江の川祭りの花火大会は現場にいた全員の心に焼き付いた、後世に語り継がれる印象深いイベントになったのではないかと思います。さて今回は私なりの江津の

近況報告やお願いごとなどを、つらつらと綴つてまいります。

ここ最近の有福温泉は昔ながらの旅館に加えて、オシャレな宿泊施設や飲食店が充実してきており、雰囲気も新たに以前の活気が戻つてまいりました。市外へ出られている方は、是非江津へお帰りの際は有福温泉へ遊びに来てください。ここだけは変わらない御前湯の熱いお湯に浸かつて昔のことを懐かしんでみるのも悪くないのではないのでしょうか。お土産は善太郎餅で決まりですが、おかみさんが孤軍奮闘していますので、皆さんの応援をお願いします。また、現在、福屋味噌や福まんの復活計画が進行中ですので、今後も有福温泉の動向を刮目してお待ちください。

山陰道出雲く多伎間が3月26日開通見通しで工事を行っています。さらに今後5年程度で江津市エリアの山陰道は全線が開通する見通しになっています。遠方から江津市への移動が楽になるとともに、江津市を素通りしていく車も増えるのではないのでしょうか？ピンチをチャンスにしたい、ごうつ道の駅エリアの動向が注目されるところです。そんな中、「舞の市」が3月26日開通にあわせてリニューアルを計画しています。ドライバーや旅行者の目的地となるような施設にしたいと熱い思いで計画を進めていますので、オープンの際には是非非目的の地

としてお立ち寄りください。話しは変わつてお願いです。江津市は2025年までに二酸化炭素排気量を実質ゼロにするゼロカーボンシティ宣言をしましたが、排気量の7割を占める企業の取り組みが重要になります。環境に配慮している企業イメージは今後ますます取引の大きな武器になっていきますので、事業所にお勤めの方はぜひ積極的に取り組みを検討して頂けると喜びます。

ここ最近、関東江津会、関西江津会の会員数が年々減つているというお話をよく伺います。関東関西在住の江津工業高校卒業生の皆様には、是非江津会に入つていただき、江工魂で会を大いに盛り上げていただきたいと思います。入会や相談は江津商工会議所へご一報ください。また、その他の地域で江津会を立ち上げたい方もご相談ください。よろしくお願いたします。つたない文章で近況を報告させていただきましたが、百聞は一見に如かず。市外へ出られている会員の皆様には、是非ご自身の目で直接江津市を見に帰ってきていただけますようお願いいたします。



同窓会報告

「まめなか会」

石田 巨

(電気科 昭和三十八年卒業)

我々昭和38年3月電気科(3期生)卒業生は関東地区で単独でクラス会を開催して来ました。故・渡邊昌朋君が上京時、関東在住のクラスメイトとクラス会を行いました。それをきっかけにして、在郷の故竹林静雄君達のご尽力で総合クラス会を立上げ、平成19年8月に第1回総合クラス会を「きんたの里」で開催しました。

第2回総合クラス会を「きんたの里」で開催しました。長島 勝君(旧姓・大屋)の提案で総合クラス会の名称を「まめなか会」と決めました。以後各地区持ち回りし、令和6年10月10日「きんたの里」で11回目を開催しました。次回(12回)は令和8年に行う予定です。

卒業して62年、大半の方が傘寿を迎え、今回は8名の参加者(関東・東海・関西・島根)でした。冒頭に物故者(前回は降3名)へ黙禱をして、記念写真撮影・懇親会に移行しました。在学中・過去の写真等(まめなか会共)を見ながら、近況報告等を行い盛会でした。2時間があつという間に終わりました。

11日は、母校開校90周年記念式典でご多忙中にもかかわらず、楯野校長先生(機械科卒)の案内で校内の見学(電気科実習室主体に)をしました。その後、開校90周年記念式典に参加しました。母校は島根県立江津高等学校(両校とも生徒数は120名程度)との統合計画が進んでおり、4年後には母校の名称が無くなり、新しい高等学校(母校の改修工事等をして)ができる予定です。さみしい話ですが、人口減少の激しい石見地方では仕方がないと思います。校門前側の松並木、校舎、校舎裏の松林と白浜、桑蓬寮、街並み等が変わって、変わっていないのは駅舎のみの感じがしましたが良い思い出を作る事が出来ました。



「50年ぶりの再会」

山本 義信

(電気科 昭和四十九年卒業)



令和7年を迎え、全国各地でご活躍の江工会会員の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのことと、お慶び申し上げます。昨年の10月13日(日)、地元居住の5人が世話人となり、50年ぶりに昭和49年卒業生による「江工電気科同窓会」を開催いたしました。住所確認できた方、連絡の取れる方を対象に出欠意向を確認したところ、県内外から世話人を含め17名の出席を頂きました。

受付時に名札を配りますが、半世紀ぶりに会う顔ぶれに自分も含めて卒業時と比べ、あまりにも風貌の違いに途惑う者も居れば、昔も今も変わらない者も居り、卒業アルバム集合写真と見比べながら笑える瞬間でもありました。酔う前に全員による近況報告がありました。今こそ、勤め先退職後も継続雇用として働く者、雇用契約で働く者、自営業を継続する者や私のように年金生活で農業に携わる者等様々ですが、現役時代には国内はもとより、世界に踏み込んで活躍された同窓生を誇りに思ったところです。心地よい酔いと時間の経過とともに皆、昔を思い出し大いに盛り上がりました。最後は、あまり遠くない未来での再会を誓い合い別れたところです。私達が卒業した時代は、高度成長期の真つ只中で、東京・大阪などの大都市周辺で電機・自動車・化学・鉄鋼などの大企業を中心とした経済発展が進んだ時代で、雇用の場も急速に拡大し、島根県はもとより地方から多くの若者が働きに出て高度成長を支えてきました。しかし、そうした大都市への人口流出により島根県の人口も大きく減少して来ましたが、その上、現代では、高齢者県である島根県も出生者が死亡者を下回る自然減が進み、人口減少に拍車を掛けています。そうした中で、江津工業高校と江津高校との統合が決定したようですが、いずれにしても、生徒数の減少による同じ問題を抱える両校が、伝統や特性を残し、最

◆ 会報58号発行
1月24日(水)
県内外各支部、卒業生在籍地元企業、現教職員、在校生、同窓会等に配布。

◆ 事務局だより ◆

令和6年
1月5日

土井正人(昭和三十九年工業化学卒)江工会会長より式辞を行いました。

◆ 江工会理事会・総会
5月11日(土)

◆ 新卒者入会式
2月29日(木)
江工会入会式(令和5年度卒業生48名)

会館吾妻において理事会・総会を行いました。令和5年度事業・決算報告、令和6年度7年度の役員改選、6年度事



善なスタートが切れることを希望します。最後に、江工会会員の皆様のご健康と、ご多幸をご祈念申し上げます。

業・予算審議、開校90周年記念式典の概要説明と、会員名簿の発行について、中間報告を行いました。また、新設校の準備について、楫野哲央(昭和六十二年機械卒)校長より、状況の報告を行いました。総会の後、懇親会を行い、親交を深めることができました。

◆関東支部総会

3月3日(日)

如水会館において千代延勝彦(昭和四十九年建築卒)支部長をはじめ、49名の出席により、再生30周年記念の支部総会が開催されました。

総会では、千代延勝彦支部長と来賓の挨拶、30年の歩みについて報告の後、令和5年度の活動や決算報告、6年度の活動計画や予算についての審議と新役員の紹介が行われました。

懇親会では、山崎ていじ(山崎禎次・昭和五十一年建築卒)オンステージで、大いに盛り上がりました。本部より小嶺和隆校長が出席しました。

◆山口県支部総会

5月19日(日)

山口グランドホテルにおいて大屋節雄(昭和三十八年工業化学卒)支部長をはじめ、20名の出席によって、最後の支部総会が開催されました。68年という長きにわたり、支部の運営をされた諸先輩方

には、深い感謝と御礼を申し上げます。

◆関西支部総会

6月15日(土)

ホテルヴィスキオ尼崎において中上清之(昭和五十一年建築卒)支部長をはじめ、36名の出席によって開催されました。

総会では、中上清之支部長と来賓の挨拶の後、令和5年度の活動や決算報告、6年度の活動計画や予算についての審議が行われました。

懇親会では、カラオケやビンゴゲーム、山崎ていじオンステージで、大いに盛り上がりました。本部より土井正人会長が出席しました。

◆益田支部総会

7月5日(金)

ちるちるみちる駅前店において安田徳太(昭和四十一年建築卒)支部長をはじめ、12名の出席によって開催され、支部の運営と会費等について、熱心な意見交換を行いました。また、懇親会は和気あいあいとした雰囲気です。深めました。

◆浜田支部総会

7月27日(土)

鈴蘭別館において岡本正友(昭和四十六年建築卒)支部長をはじめ、36名の出席によって開催されました。総会では、令和5年度の活

動や決算報告、6年度の活動計画や予算についての審議が行われました。また、役員改選により、隅井保彦(昭和五十九年機械卒)新支部長が選出され、新役員の紹介が行われました。

懇親会では、会員の皆様を持ち寄った品々を賞品としたビンゴ大会が実施され、最後に、応援歌、校歌を歌い、大いに盛り上がりました。本部より土井正人会長が出席しました。

計 報

令和6年12月23日現在
謹んでお悔やみ申し上げます。

令和5年度

旧職員

- 益子原 利 男 工業化学
- 昭和23〜昭和38年度
- 水野 博 充 水野 博 充 教頭
- 平成3〜平成6年度

会 員

- 丸山 登 (昭和二十九年 機械)
- 山中 康 徳 (昭和三十年 木材工業)
- 米村 豊 (昭和三十五年 木材工業)
- 近重 一 臣 (昭和四十一年 建築)

令和6年度

旧職員

- 木下 英 樹 校長
- 平成13〜平成16年度

会 員

- 三浦 孝 夫 (昭和三十八年 電気)
- 柳井 真 吾 (昭和三十八年 電気)
- 小松原 和 則 (昭和三十二年 機械)
- 佐々木 公 義 (昭和三十四年 機械)
- 草刈(大崎)敏昭 (昭和三十五年 機械)
- 藤野 忠 義 (昭和三十八年 建築)
- 二上 定 (昭和二十一年 建築)
- 植田 昌 彦 (昭和二十八年 木材工業)

※事務局で把握できた方のみ掲載しております。

編 集 後 記

多忙な折り、快くご寄稿いただきましたこと、厚くお礼申し上げます。お蔭さまで第五十九号を発行することができました。

地元を活性化するために色々と探求しながら活動し、情報を発信しています。母校のインスタグラムやFacebookのQRコードを記載しておきますので、ぜひご覧ください。

なお、今後とも会報に対しましてご意見、情報等(同窓会報告、会員消息等)がございましたら事務局へご連絡をお願い致します。(事務局 高月)



Instagram



Facebook



令和 5 年度 江工会一般会計 決算書

1. 収入の部

(単位 円)

項 目	予算額	補正額	補正後予算額	決算額	差 引	備 考
1 繰越金	885,686	0	885,686	885,686	0	令和 4 年度繰越金
2 会費・入会金	518,400	0	518,400	524,701	△ 6,301	令和 5 年度卒業生 48 名分 過年度卒業生分 預金利息
3 寄付金	10,000	0	10,000	90,000	△ 80,000	卒業生より 50,000 円 関東支部より 40,000 円
4 繰入金	0	0	0	0	0	
5 雑収入	14	0	14	6	8	預金利息
収入合計	1,414,100	0	1,414,100	1,500,393	△ 86,293	

2. 支出の部

(単位 円)

項 目	予算額	補正額	補正後予算額	決算額	差 引	備 考
1 工業教育振興会費	10,000	0	10,000	10,000	0	県工業教育振興会への助成
2 会報発行費	170,000	0	170,000	142,560	27,440	会報 58 号 2,000 部発行
3 記念品費	50,000	0	50,000	28,200	21,800	卒業生への角筒
4 会館運営費助成	150,000	0	150,000	150,000	0	江工会館運営費への助成
5 通信費	50,000	0	50,000	20,015	29,985	理事会総会案内 会報原稿依頼等
6 旅費	300,000	0	300,000	166,956	133,044	支部総会出席旅費
7 会議費	200,000	0	200,000	53,956	146,044	支部総会への支援 会議用お茶代
8 慶弔費	30,000	0	30,000	0	30,000	
9 雑費	30,000	0	30,000	440	29,560	祝儀袋代
10 積立金	300,000	0	300,000	300,000	0	定期預金
11 予備費	124,100	0	124,100	0	124,100	
支出合計	1,414,100	0	1,414,100	872,127	541,973	

令和 6 年度 江工会一般会計 予算書

1. 収入の部

(単位 円)

項 目	予算額	補正額	補正後予算額	前年度当初予算額	増 減	備 考
1 繰越金	628,266		628,266	885,686	△ 257,420	令和 5 年度繰越金
2 会費・入会金	421,210		421,210	518,400	△ 97,190	入会金・終身会費 39 名分 × 10800 円 利息含む
3 寄付金	10,000		10,000	10,000	0	
4 繰入金	0		0	0	0	
5 雑収入	34		34	14	20	預金利息
収入合計	1,059,510		1,059,510	1,414,100	△ 354,590	

2. 支出の部

(単位 円)

項 目	予算額	補正額	補正後予算額	前年度当初予算額	増 減	備 考
1 工業教育振興会費	10,000		10,000	10,000	0	県工業教育振興会への助成
2 会報発行費	170,000		170,000	170,000	0	会報 59 号 1,500 部発行
3 記念品費	50,000		50,000	50,000	0	卒業生への角筒
4 会館運営費助成	150,000		150,000	150,000	0	江工会館運営費への助成
5 通信費	50,000		50,000	50,000	0	理事会総会案内 会報原稿依頼等
6 旅費	300,000		300,000	300,000	0	支部総会出席旅費
7 会議費	150,000		150,000	200,000	△ 50,000	支部総会への支援
8 慶弔費	30,000		30,000	30,000	0	
9 雑費	30,000		30,000	30,000	0	
10 積立金	0		0	300,000	△ 300,000	
11 予備費	119,510		119,510	124,100	△ 4,590	
支出合計	1,059,510		1,059,510	1,414,100	△ 354,590	